

報告

炎症性腸疾患関連脊椎関節炎(IBD-SpA)に関する前向きコホート研究

岸 本 暢 將¹⁾ 福 井 翔²⁾ 松 浦 稔³⁾
三 井 達 也³⁾ 斎 藤 大 祐³⁾ 林 田 真 理³⁾
小 野 慶 介¹⁾ 小 林 知 志¹⁾ 川 嶋 聰 子¹⁾
池 谷 紀 子¹⁾ 川 上 貴 久¹⁾ 三 好 潤³⁾
駒 形 嘉 紀¹⁾ 久 本 理 一³⁾

1) 杏林大学医学部腎臓・リウマチ膠原病内科学教室

2) 杏林大学医学部総合医療学教室

3) 杏林大学医学部消化器内科学教室

研究の目的（図1）

- (1) IBD-SpA の早期発見および診療科間の協力体制の構築
- (2) IBD患者におけるSpAの有病率および特徴、治療、生活への影響の解明
- (3) 海外との比較による本邦のIBD-SpAの特徴の解明
- (4) IBD患者におけるSpAのスクリーニングツールの開発
- (5) IBD患者におけるSpA発症のリスク因子の同定

1年間の研究成果

消化器内科に通院している発症3年以内のIBDの患者で本研究に対する同意を得られた全例を対象とし、(1)

IBDの症例票を登録し、患者を研究目的の関節評価の外来に紹介 (2) 関節評価外来で関節炎や付着部炎などの、SpAの所見を詳細に評価し、患者登録票を登録 (3) IBS-SpAの診断、疑いとなった患者は通常の外来で精査、フォローアップを行う。(3) さらに並行して患者は生活習慣やQOLに関連したアンケートに回答 (4) 患者登録票と患者アンケートに加え、血液検査や画像検査の結果をデータ化、登録してレジストリを構築した。

現在、同意を得られた全94例の発症早期IBD患者をレジストリに登録を行い、エクセルシートにすべてのベースラインデータの入力を完了した。早期IBD患者で、適格基準を満たした85名中、10名のIBD-SpA（体軸性SpA 3

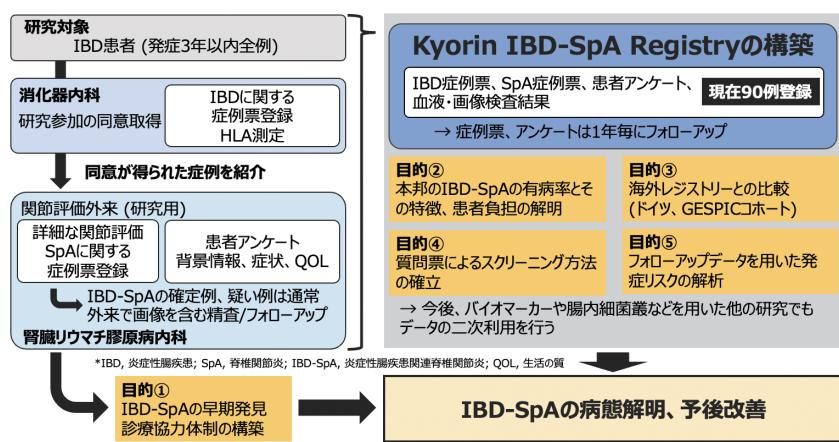


図1 研究概要

ROC curve PASE score for IBD-SpA

ROC, receiver operating characteristic; PASE, Psoriatic Arthritis Screening and Evaluation; IBD-SpA, Psoriatic Arthritis Screening and Evaluation

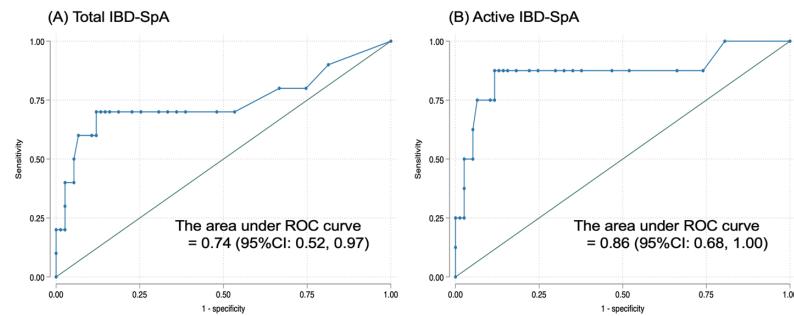


図2 PASE score の IBD-SpA に対する診断特性

名、末梢性SpA 7名）の診断を行うことができた。消化器内科とリウマチ膠原病内科の協力構築により、目的（1）「IBD-SpAの早期発見および診療科間の協力体制の構築」を達成することができた。現在目的（2）（4）の解析を進めている。特に研究目的（4）の早期スクリーニングツールの開発において、乾癬性関節炎のスクリーニングに用いられるPASE（Psoriatic Arthritis Screening and Evaluation）を早期IBD患者に用いて、IBD-SpAの同定が可能かを検証した。The area under the receiver

operating characteristic curveはIBD-SpA全体に対して、0.74（95%信頼区間：0.52, 0.97）、活動性のIBD-SpAに対しては0.86（95%信頼区間：0.68, 1.00）であり、PASEはIBD患者におけるSpA患者の同定にも有用であると考えられた（図2）。

2025年6月に行われた欧州リウマチ学会（2025年1月締め切り）での発表を行い、現在論文を作成・投稿して査読中である。